

**This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

**Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.**

**Defects in the images may include (but are not limited to):**

- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 許出願公開番号

特開平8-10294

(43) 公開日 平成8年(1996)1月16日

(51) Int. Cl.<sup>6</sup>

A 6 1 G 17/08

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z

審査請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-281133

(22) 出願日 平成6年(1994)10月7日

(31) 優先権主張番号 特願平6-125665

(32) 優先日 平6(1994)4月27日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 591258358

拝野 圭造

京都府福知山市南平野町41

(72) 発明者 拝野 圭造

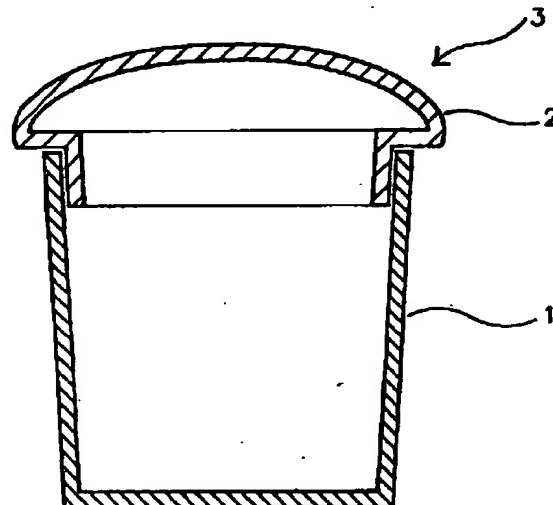
京都府福知山市南平野町41

(54) 【発明の名称】 骨 壺

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 遺骨を骨壺に入れたまま埋葬しても、骨壺も遺骨も一定の時間が経てば自然に土に還ることができる骨壺を提供する。

【構成】 生分解性合成樹脂材で形成された骨壺本体1に蓋体2で蓋をした骨壺3。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 骨壺本体と、この骨壺本体の上部開口部を覆う蓋体を、土中微生物に分解される生分解性合成樹脂材で形成したことを特徴とする骨壺。

【請求項2】 骨壺本体と、この骨壺本体の上部開口部を覆う蓋体を、比重を高め重量感を出すため砂、珪砂、硝子、雲母、金属等の粒子状或いは粉末状に形成した重り材を混入した生分解性合成樹脂材で形成したことを特徴とする骨壺。

【請求項3】 骨壺本体と、この骨壺本体の上部開口部を覆う蓋体を、分解を促進するため木、粉殻、くるみ殻等の粒子状或いは粉末状に形成した分解促進材を混入した生分解性合成樹脂材で形成したことを特徴とする骨壺。

【請求項4】 骨壺本体と、この骨壺本体の上部開口部を覆う蓋体を、比重を高め重量感を出すための砂、珪砂、硝子、雲母、金属等の粒子状或いは粉末状に形成した重り材の内1種類或いは複数種類と、分解を促進するための木、粉殻、くるみ殻等の粒子状或いは粉末状に形成した分解促進材の内1種類或いは複数種類を混入した生分解性合成樹脂材で形成したことを特徴とする骨壺。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、骨壺に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来の骨壺は陶器で形成されていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来は、お墓の下に納骨埋葬する場合、石棺内に遺骨を陶器製の骨壺に入れたまま埋葬していた。次々と埋葬するため、新たな骨壺を埋葬するスペースが無くなると、年月を経た古い骨壺から順次取り出し、その骨壺より遺骨を取り出して石棺内に撒いて土に還し、空いたスペースに新しい骨壺を埋葬するという方法が取られていた。しかし、近年、合葬墓が増えるにつれ骨壺のままである埋葬には、早い時期にスペースに限りが出るようになり、更に、墓石下の湿潤なところから古い骨壺を取り出さなければならないという煩わしさもあって、当初から納骨埋葬時に遺骨を骨壺より取り出してそのまま石棺内に撒いたり置いたりすることもあるが、厳粛な宗教儀式といえども遺族の心情として捨て置かれているのではないかと忍びがたい思いに駆られていた。このため遺骨を骨壺に入れたまま埋葬し、骨壺も遺骨もやがて土中微生物に分解されて土に還ることの出来る骨壺を提供することを本発明は目的としている。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】骨壺本体とこの骨壺本体の上部開口部を覆う蓋体を、土中微生物に分解される生分解性合成樹脂材で形成すること、また、それらに重量

感を持たせるための重り材、分解を促進するための分解促進材などを生分解性合成樹脂材に混入して形成したことを特徴とする骨壺とした。

## 【0005】

【作用】骨壺本体とこの骨壺本体の上部開口部を覆う蓋体を、生分解性材料で形成しているため、遺骨を骨壺の中に入れて埋葬しておけば骨壺本体、蓋体及び遺骨も一定の時間が経てば分解され土に還る。

## 【0006】

【本発明の実施例】以下、図面に示す実施例により、本発明について説明する。図1乃至図3の本発明の第1の実施例において、(1)は内部に火葬後の遺骨を入れる生分解性合成樹脂材で形成された骨壺本体である(2)は骨壺本体(1)の上部開口部を覆う、同じく生分解性合成樹脂材で形成された蓋体である。上記構成の骨壺(3)は火葬後の遺骨を骨壺本体(1)に納め、蓋体(2)で蓋をする。然る後、納骨埋葬時はこのまま墓石下の石棺内に納骨埋葬する。そして一定の時間が経てば骨壺本体(1)蓋体(2)は土中微生物によって分解される。

## 【0007】

【本発明の異なる実施例】次に図4乃至図6に示す本発明の異なる実施例について説明する。尚、これらの本発明の異なる実施例の説明にあたって、前記本発明の実施例と同一構成部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

【0008】図4に示す第2の実施例において、骨壺本体(1)及び蓋体(2)を、比重を高め重量感を出すため砂、珪砂、硝子、雲母、金属等の粒子状或いは粉末状の重り材(4)を混入した生分解性合成樹脂材で形成した骨壺(3A)とした。このように骨壺(3A)を構成することにより、従来の骨壺同様重量感を持たせることが出来る。

【0009】図5に示す第3の実施例において、骨壺本体(1)及び蓋体(2)を、分解を促進するため木、粉殻、くるみ殻等の粒子状或いは粉末状分解促進材(5)を混入した生分解性合成樹脂材で形成した骨壺(3B)とした。このように骨壺(3B)を構成することにより、骨壺(3B)の分解を促進することが出来る。

【0010】図6に示す第4の実施例において、骨壺本体(1)及び蓋体(2)を、比重を高め重量感を出すための砂、珪砂、硝子、雲母、金属等の粒子状或いは粉末状の重り材(4)の内1種類或いは複数種類と、分解を促進するための木、粉殻、くるみ殻等の粒子状或いは粉末状の分解促進材(5)の内1種類或いは複数種類を混入した生分解性合成樹脂材で形成した骨壺(3C)とした。このように骨壺(3C)を構成することにより、骨壺(3C)は重量感のある分解の早い骨壺とすることが出来る。

## 【0011】

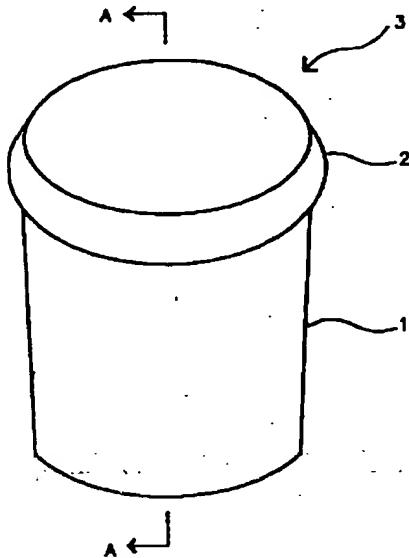
3

【発明の効果】本発明の骨壺によって、限られた埋葬スペースが無くなり、湿潤な墓石下より骨壺を取り出さなければならないという煩わしさも無くなり、厳粛な宗教儀式といえども墓石下の石棺内に遺骨を撒き置くがごとき納骨は、遺族の心情として墓石下に捨て置かれているのではないかという忍びがたい思いもあったが、骨壺に遺骨を入れたまま納骨埋葬しても骨壺も遺骨も一定の時間が経てば自然に土に還るという本発明の骨壺によりそれらが解決された。

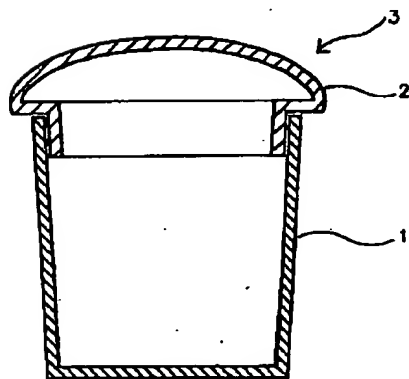
【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1の実施例を示す斜視図

【図1】



【図3】



4

【図2】 本発明の第1の実施例を示す正面図

【図3】 図1のA-A線に沿う断面図

【図4】 本発明の第2の実施例を示す断面図

【図5】 本発明の第3の実施例を示す断面図

【図6】 本発明の第4の実施例を示す断面図

【符号の説明】

1 . . . . . 骨壺本体

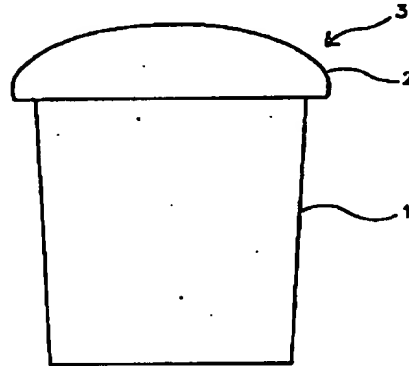
2 . . . . . 蓋体

3、3A、3B、3C . . . 骨壺

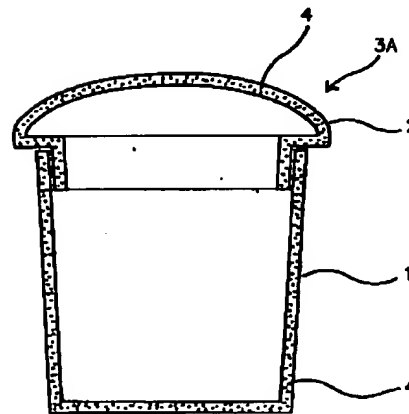
10 4 . . . . . 重り材

5 . . . . . 分解促進材

【図2】



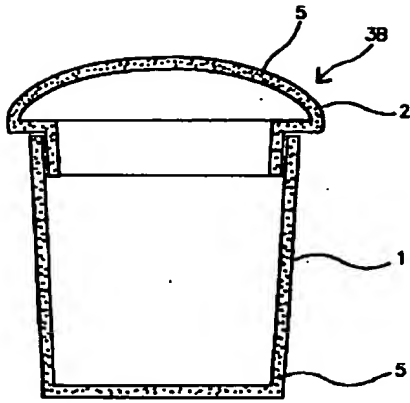
【図4】



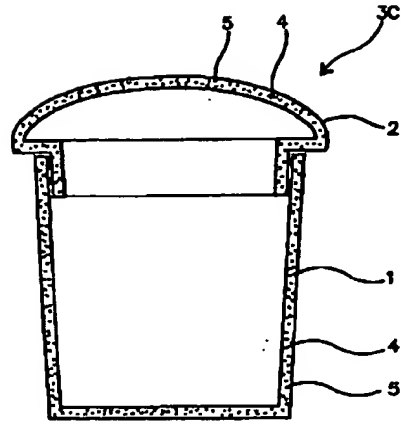
(4)

特開平8-10294

【図5】



【図6】



CLIPPEDIMAGE= JP408010294A

PAT-NO: JP408010294A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08010294 A

TITLE: CINERARY URN

PUBN-DATE: January 16, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HAINO, KEIZO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

HAINO KEIZO

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP06281133

APPL-DATE: October 7, 1994

INT-CL (IPC): A61G017/08

ABSTRACT:

PURPOSE: To bury the remains while keeping them in the cinerary urn and to decompose both the cinerary urn and the remains by microbes in soil to return them to soil by forming the main body of the cinerary urn and a lid body for covering an upper opening part at the main body of the cinerary urn with biodegradable synthetic resin materials to be degraded by the microbes in soil.

CONSTITUTION: A cinerary urn 3 is composed of a main body 1 of the cinerary urn formed by the biodegradable synthetic resin material for putting the cremated remains inside and a lid body 2 formed by the biodegradable synthetic resin material for covering the upper opening part at the main body 1 of the cinerary

urn. After the cremated remains are rested in the main body 1 of the cinerary urn and covered with the lid body 2, at the time of burying the ashes, the cinerary urn 3 is buried inside a stone coffin under a gravestone as it is. After the lapse of fixed time, the main body 1 of the cinerary urn and the lid body 2 are degraded by the microbes in soil. Thus, the limited burying space is not required, and trouble for taking the cinerary urn out of damp soil under the gravestone is eliminated as well.

COPYRIGHT: (C)1996, JPO